

情報処理基礎雑感

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-11-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田上, 秀一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/7922

情報処理基礎という科目は、1999年に改組と時を同じくして誕生した科目である。筆者は当初から材料開発工学科の担当として、海外長期出張の年を除き、従事してきた。情報処理とは比較的縁遠い工学部の学科で担当を続けている一教員としての視点から、情報処理基礎の講義を実施してきた感想と今後のあり方について、思うままに述べてみる。多少、主観の入った乱筆乱文な内容になることをお許し願いたい。

1999年に情報処理基礎の科目が始まって現在に至るまでに感じる最も大きな変化は、受講する学生の予備知識のレベル向上である。当初は、パソコンの電源の入れ方、マウスの操作方法、日本語の入力方法などについて、結構な時間を割いて扱ってきた。現在では、高校や自宅等でパソコンに触れる機会が増えたことから、学生の技術的な予備知識は備わっており、時間をかけなくてもそれなりに日本語入力や、ウィンドウ操作もできるようなのである。ただ、表計算ソフトは扱いづらいようで、演習や試験を実施してもうまく使いこなせない学生が多い。

材料開発工学科は工学部の中では化学系寄りの部類に入り、コンピュータとは比較的縁遠い学科と判断できるだろう。そのため、講義で扱う内容もプログラミング言語やホームページ作成といった特別なことを行わず、講義ガイドに沿ってオーソドックスな内容を扱っている。独自性の部分を強いて挙げれば、(1)電子メールを使った出席、(2)PowerPointで作成したスライドを用いた発表会の実施、(3)添付ファイルによるレポート提出、くらいである。講義のコンセプトは「パソコンの前に座って、じんましんができない程度の技能を身につける。」としているため、「コアな学生」にはたいへん退屈な講義になるかもしれないが、そこは割り切って行っている。そのためか、毎年実施されている「授業評価アンケート」では、進みが早いという意見と進みが遅いという意見が両方ともほぼ同数寄せられる。「授業評価アンケート」で得られた意見はできるだけ反映すべしといわれているが、こればかりはどうにもならない。この手の講義の難しいところであろう。ただ、幸いなことに楽しんで講義を受

けている学生が結構多いのも事実である。

現在務めている部会長の仕事のひとつに、「情報処理基礎講義ガイド」の編集を中心となって音頭をとることがあり、そろそろ平成20年度の講義ガイドの編集を始めなければならない。毎年作成されるこのガイドは、教科書やHow to本の役割を持つのではなく、講義で扱う最低限のレベルを示す「道しるべ」の位置づけで編纂していると聞き、ここ数年はそれを踏襲した編集作業を行っている。そのため、各章に書かれている内容は必要最小限の記述に止まっている。ただ、学生にとっては「買わせる教科書」=「How to本」の役割を期待するようで、講義ガイドの記述内容に失望する学生も結構いるように思う。そのためだろうか、小生担当の学科でも講義ガイドを購入しない学生が出てきている。一方では、工学部では学科毎に教える内容が異なっており、「講義ガイドは使えません」としている学科もあると聞く。そのような現状を耳にすると、「情報処理基礎講義ガイド」を作る意味を悩んでしまう。少なくとも、来年度までは特色GPの予算が付いているので「情報処理基礎講義ガイド」を作ることになるが、そろそろ、「情報処理基礎講義ガイド」そのもののあり方について見直す時期に来ているように感じている。将来の方向性のひとつとして、高校ではあまり扱わないネチケットやマナー、著作権に関する話などを重視することが挙げられるだろう。その面だけでも統一コンセプトとして講義ガイドを作成すれば、みなさまにお使い頂ける意味のあるガイドになるのではないだろうか。

「情報処理基礎が本当に役に立っているのか?」。この疑問に対する答えは、この後に学生のみなさんにお書き頂いた文章をご覧頂き、ご判断頂きたい。